

---

# 降臨！！恐怖の大王

N澤巧T郎

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

降臨！！恐怖の大王

### 【Nコード】

N2872A

### 【作者名】

N澤巧T郎

### 【あらすじ】

1999年7の月、恐怖の大王は舞い降りた

1999年7の月、恐怖の大王は舞い降りていた。

恐怖の大王はある部屋にいた。そして、意気揚々と外に出た。

「どうもどうも、恐怖の大王です。」

しかし、みんな恐怖の大王の事なんて見ちゃいない。いそいそとして眼中に入らない。

まあいいや、恐怖させればみんな見てくれるさ。と、思いながらどうやって恐怖を与えるか考えていた。

食い逃げ、ピンポンダッシュ、スカートめくり、足かっくん、ねえねえって肩に手をやってほっぺたに指を突き立てるヤツ、などなどたくさん考えながらニヤニヤとしていると、ふと大型テレビジョンからニュースが流れてきた。それを見て恐怖の大王はオドロンパ。

「こ、こいつらは・・・恐怖の大王か・・・？」

自分なんかよりもはるかに上に行く悪さをしている人間達を見て、恐怖の大王の全身を鳥肌が覆い隠した。

周りを見ても、誰一人としてこのニュースに恐怖する人がいない。

「な、なんで・・・」

そう思っているとなんだか周りにいる人たちがだんだん怖くなってきた恐怖の大王。額から脂汗がふきだし、恐怖の大王は恐怖に囲まれてしまった。

恐怖の大王は走り出した。しかし、行けども行けども恐怖は回りに溢れている。恐怖の大王は息をあげながら自分のいた部屋に戻ってきた。そして、急いで変な装置に入る。

装置から出ると目の前のおじさんが恐怖の大王に問いかけた。

「どうだ!! みなを恐怖のどん底に突き落としたか!？」

恐怖の大王は答えた。

「未来は・・・恐怖の大王が溢れてる・・・。オレが行かなくなったって、予言は当たってたのさ」

ノストラダムスと恐怖の大王は立ち尽くしている。

(後書き)

足カックンにスカートめくり・・・。  
怖すぎてちびりそうだ!!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2872a/>

---

降臨！！恐怖の大王

2011年10月3日02時16分発行